

第2部 基本構想



第1章 上ノ国町の将来像

第1節 新しいまちづくりの基本理念

「第1部 序論」に基づき、新しいまちづくりを進める上で、すべての分野において基本とする、3つのまちづくりの基本理念を以下のとおり定めます。

■基本理念1 「安全・安心」

おだやかに

事故や災害、犯罪から守られ、生活者の視点を大切にして、『おだやかでやさらかな暮らし』が実感できるまちづくりを進めます。



■基本理念2 「自立・自律」

しなやかに

目標や目的の実現に向かって、『自ら考え、自ら律していく』効果的・効率的な町政運営のもとにまちづくりを進めます。



■基本理念3 「参画・協働」

たずさえて

“上ノ国町の住民”が互いに手を取り合い、ともに協力し、行動を起こす、『みんなでつくる』まちづくりを進めます。



第2節 上ノ国町の将来像

将来像は、住民と行政が一体となってめざす、将来のあるべきまちの姿です。これまでのまちづくりの取り組みで培われた多くの財産を生かし、将来像を以下のとおり定めます。

将来像

輝くまち わたしたちの上ノ国

～ 一人ひとりが輝くまち 暮らしやすいまち 協働で未来を築くまち ～

■一人ひとりが輝く

生涯を通して学び、助け合い、だれもが活躍できる地域社会を創造し、一人ひとりが輝くまちづくり

■暮らしやすい

だれもが住み慣れた地域で、安心して、明るく健やかに暮らせる、元気と暖かさに満ちたまちづくり

■協働で未来を築く

住民が自ら誇りを持てるまちを築くため、住民と行政がそれぞれの役割と責任を果たせる地域社会の仕組みづくりを進め、人と人との互いを尊重し、支え合う、協働によるまちづくり

こうしたまちづくりを進め、一人ひとりが生涯輝いていられる、暮らしやすいまちを、住民の総力と英知をあつめて築いていく、「輝くまち・わたしたちの上ノ国」の実現を目指します。

第3節 将来像実現のための基本目標

将来像の実現に向けて、新たなまちづくりの基本目標（5つの施策の柱）を次のとおり設定します。

将来像実現のための基本目標

基本目標 1 創意工夫で地域の活力を起こす産業交流のまち

基本目標 2 だれもが安心して生涯健やかに暮らせるまち

基本目標 3 自然と共生し美しくゆとりある安全安心のまち

基本目標 4 自ら学び地域とともに人を育む教育文化のまち

基本目標 5 語らいとふれあいを実感できる参画協働のまち

基本目標 1 創意工夫で地域の活力を起こす産業交流のまち

産業の活性化による就業の場の創出と定住・交流は、まちの活力の源泉です。そのため、本町特有の気候、風土、水と緑などの自然的条件や地理的条件などを生かした第一次産業が花を咲かせることが重要です。

農林水産業は、生産基盤の整備と生産物のブランド化*や高付加価値化を図るとともに、多面的な機能を生かし、「農」、「林」、「水産」が地域資源と連携した新しい稔り豊かな産業へと発展を図ります。

雇用と生活の安定に寄与してきた地場産業は、広域的・総合的な視点に立って、企業・商店間の連携を図り、知恵と工夫により新たな枠組みを構築して振興を図ります。

また、歴史に裏付けされた地域資源を見直し、各地域の豊かな自然を観光資源として総合的に活用して、滞在・体験のできる自然系観光*・レクリエーションのまちを目指します。

さらに、風力発電などの地域特性を生かした新エネルギー*の活用を図ります。

*ブランド化：銘柄の確立。

*自然系観光：自然環境や自然景観を活用した観光。

*新エネルギー：バイオマスエネルギーや太陽光、風力、水力といった自然現象を利用する再生可能なエネルギー。

基本目標 2 **だれもが安心して生涯健やかに暮らせるまち**

少子・高齢社会を迎えて、保健・医療・福祉体制の充実と、地域ぐるみで要援護者*等への支援を行うとともに、地域のネットワークの活用を図りながら、住民にとって身近でしかも高度な対応が可能となる環境づくりを推進します。

また、病気になる前の健康対策の充実、ノーマライゼーション*の推進を図ります。

さらに、地域ぐるみでの子育て支援体制づくりを進め、安心して子どもを産み育てる環境を整備します。

あわせて、交流や助け合い活動を通して、みんなが心身ともに安心して、しかも、生きがいをもって暮らせるまちを目指します。

基本目標 3 **自然と共生し美しくゆとりある安全安心のまち**

森林、河川、海岸などの自然や農地の緑の中で、多様な生物が息づく豊かな生態系が形成された環境を大切な財産として保全し、美しい景観の形成を図ります。

また、住民の安全や安心へ関心が高まる中、風水害や地震などの災害及び多様化・低年齢化する犯罪からの安全を確保し安心して生活できるまちを目指します。

さらに、人々の身近な生活空間に自然が満ち溢れ、その自然や緑を背景とした美しい街なみを整備するとともに、地球温暖化物質等の排出抑制、資源やエネルギーの有効利用などを通して、生活・産業などのすべての人間活動と自然環境が調和した持続可能な循環型社会を構築し、人と自然が将来にわたって共生するまちを目指します。

あわせて、美しいまちづくり、ごみ処理をはじめ、上下水道などの生活基盤の充実を通して、あらゆる世代の住民が多様な生活スタイルを享受できる生活環境を整備し、生涯にわたって快適に暮らせるまちを目指します。

また、複雑多様化する住民の生活ニーズに対応した町中心部の活性化、本町の各地域間を結ぶ道路や国道・道道などの広域幹線道路とのバランスのとれた道路のネットワーク化を図り、すべての人にやさしく安全でしかも快適な生活環境が整ったまちを目指します。

基本目標 4 **自ら学び地域とともに人を育む教育文化のまち**

子どもから高齢者まで、自己の充実・啓発や生活の向上のため、生涯を通して主体的に学ぶ教育環境の充実を目指し、各地区生涯学習推進会議や高齢者、ボランティア、NPOなどの人材を有効に活用した“いつでも・どこでも・だれでも”学習できる生涯学習や文化活動の支援とスポーツ・レクリエーション活動の受け皿となるスポーツ施設や学校施設の有効利用などを推進します。

また、社会教育の中で学んだことを還元できる（知の循環社会）環境を整え、生涯学習推進会議や学校支援地域本部などとの連携強化を推進します。

*要援護者：障がい者、傷病者、高齢者など。

*ノーマライゼーション：障がいを持っていても健常者と同じ環境で暮らすことが普通とする考え方。

学校教育においては地域住民が主体的に支援する（協働）の体制を構築し、確かな学力・豊かな心・健やかな体など生きる力を育み、未来をたくましく生き抜く子どもたちの育成を推進します。

そこで、すべての教育分野で連携し、協働体制のもと幅広く体験活動を行い、地域の文化・人材の発掘育成と併せ、次世代の人材育成を強力に推進します。特に、将来を担う子どもたちの人格形成の場としてふさわしい環境を整備するとともに、本町の将来を担う地域のまちづくりリーダーを育成し、自分たちのまちに誇りをもってみんながいきいきと暮らせるまちを目指します。

道内においても貴重な歴史資源を有する特性を生かし、地域の歴史に培われた文化資源の掘り起こしやその価値の見直し、文化財のネットワーク化などを通して、歴史と文化が薫るまちづくりを推進するとともに、地域の伝統や文化などの伝承活動の活性化をはじめとする支援体制の充実を図ります。

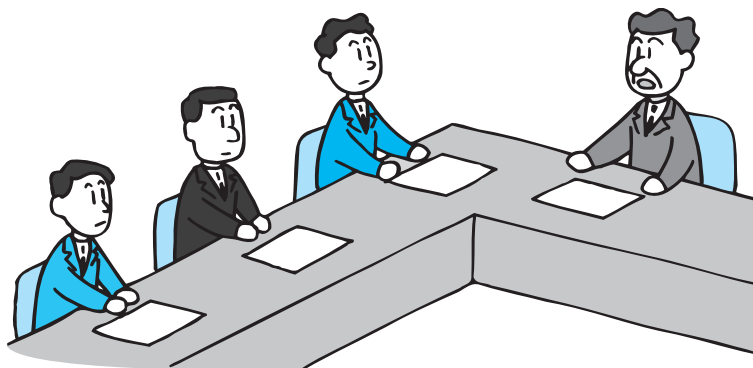
基本目標 5 語らいとふれあいが実感できる参画協働のまち

地方分権下におけるこれからのまちづくりは、積極的な行政情報の提供や住民ニーズの把握など、住民と行政の情報共有を図りながら進めることが大切です。

住民ニーズが多様化・高度化する今日、コミュニティの再生・活性化支援、行政への住民参画の推進、ボランティア・NPO*活動の推進・支援、そして男女がよきパートナーとして活躍できる男女共同参画の推進、人権の尊重など、その取り組みへの期待もますます高まっています。

このような視点を踏まえ、住民と行政が信頼関係を築いた上で一体となって取り組む“協働のまちづくり”を進め、住民生活に密着した効果的な事業の展開と住民の満足感を高めるまちづくりを目指します。

さらに、将来にわたって充実した住民サービスを提供するため、積極的に行政改革を推進することはもちろん、自主財源の確保に努め、自立した自治体経営の確立を進めます。



* N P O（Nonprofit Organization）：民間非営利団体。

第4節 将来人口の目標

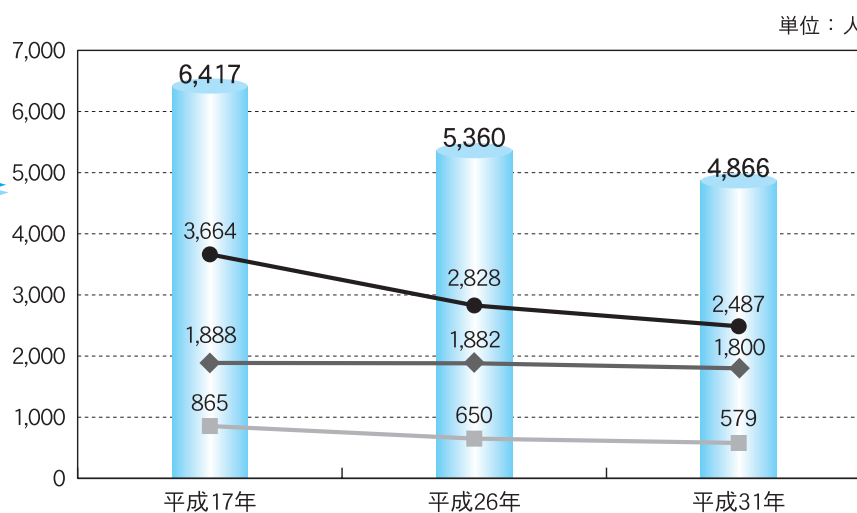
過去の人口推移に基づき、コーホートセンサス変化率法*により人口推計を行った結果によると、本町の人口は今後も減少傾向で推移し、平成31年には4,500～4,800人程度になることが予測されています。

また、高齢者人口（65歳以上）については、平成31年には1,800～2,000人程度となり、高齢者の占める割合は、全人口の約40%前後となる見込となります。

この推計を受けて数値による目標は設定しませんが、本計画推進のもと、超高齢社会への対応をはじめ、産業振興による雇用の場の拡大、子育て支援、定住条件の整備による町外への人口流出の抑制などに重点的に取り組み、推計値を上回るように最大限の努力を図ります。

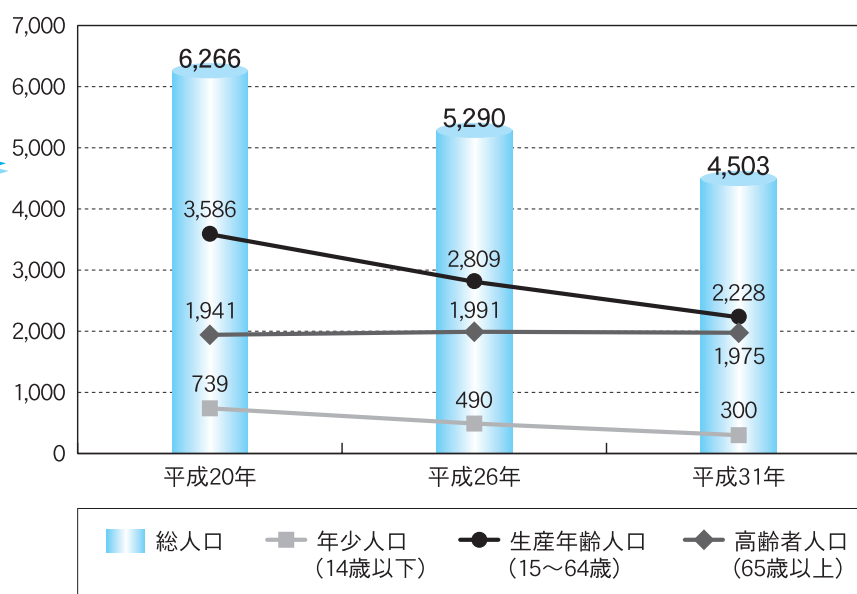
人口推計 パターンⅠ

平成2年から
平成17年の4
回の国勢調査
人口に基づく
総人口及び5
歳階級別人口
の予測結果



人口推計 パターンⅡ

平成16年から
平成20年の住
民基本台帳人
口に基づく
総人口及び5
歳階級別人口
の予測結果



* コーホートセンサス変化率法：同時出生集団の一定期間における人口の変化率を計算し、その変化率が将来も変化しないと仮定して将来の人口を推計する方法。